

国本 武春(くにもと・たけはる)先生

日本浪曲協会副会長

1960年千葉県生れ。父は天中軒龍月、母は国本晴美、両親共に浪曲師。15歳でブルーグラス・ミュージックに傾倒しマンドリンを始める。19歳で“語り”で表現する魅力にとりつかれ浪曲界入り。1982年上野本牧亭で初舞台を皮切りに寺山修司の演劇に参加するなど数々のライブに出演。87年に渡米しニューヨーク、ボストンで各国のアーティストと共に公演。ボイスパフォーマンスを披露する。その頃から作詞・作曲活動を始める。三味線にギターのフレーズを取り入れた独自の三味線奏法を使い、ロックやバラードに「忠臣蔵や民話・昔話」が合体した“弾き語りスタイル”を確立、オリジナル作品を創作する。2000年には宮本亜門演出ブロードウェイ・ミュージカル



「太平洋序曲」に主演し、2002年のニューヨーク・ワシントン公演では米国批評家に絶賛される。また音楽と語りを担った短編アニメ「頭山」は米国アカデミー賞にノミネートされた。2003年9月から1年間、文化庁の第一回文化交流使として米国テネシー州で歌手、ブルーグラス三味線奏者として活動。2004年には米国でブルーグラスバンド、“ザ・ラストフロンティア”を結成。2005年、2007年には日米でツアーを成功させた。2010年暮れに、大病を得るも2011年暮れに「大忠臣蔵」公演で完全復活。その復活劇で「第33回松尾芸能賞」を受賞する。2012年31周年記念公演を浅草・木馬亭と、日本橋・三越劇場等で開催した。古典浪曲、弾き語りライブ、三味線ワークショップ、テレビ、ラジオ出演と多方面で活躍中。浪曲中興の祖、桃中軒雲右衛門から続く「忠臣蔵」は国本武春のライフワーク。

〈講義概要〉

浪曲師として古典浪曲、弾き語りライブ、三味線ワークショップ、テレビ、ラジオ出演と多方面で活躍している国本武春氏が、浪曲の歴史や魅力について講義を行った。

講義は、本講座のコーディネーターである反畑氏との対談形式から始まり、まず、浪曲の歴史や特長、メディアとの関わり等について「大衆・物語・実演」の3つをキーワードに分かりやすく説明。また、浪曲師になったきっかけや「浪曲界の革命児」と呼ばれるまでの経緯、活動内容等について映像とともに紹介した。

後半は、国本氏が確立した「三味線にギターのフレーズを取り入れた独自の三味線奏法を使い、ロックやバラードに民話・昔話が合体した“弾き語りスタイル”」によって約40分間にも渡る実演を行い、学生は浪曲の迫力や生の音楽の素晴らしさを肌で実感し、感激するとともに、歌と語りによって人間のドラマを表現し、二度と同じ演奏のできない即興性のある浪曲の魅力や伝統芸能の奥の深さに感銘を受けた。

また、日本の誇りである伝統芸能を存続させていくこと、そして国内だけでなく海外にもその魅力を広めていくことの大切さや、伝統を守りながらも時代の変化に柔軟に対応し、革新していくことの重要性について学生は痛感し、浪曲及び伝統芸能の発展と今後のあり方について新たな視点で見つめ直す機会となった。

〈受講生の感想〉

浪曲ではなく、何か別の新しいジャンルの音楽だと感じています。浪曲にはまだまだ新しいフィールドを展開する可能性があると感じました。生で演奏していただき、とても感激しました。三味線だけでなく、お声も一つの楽器として音を奏でていらっしゃいました。本当に感動・感激しました。感動という声にならない、言葉にならないものが教室中に溢れているのを感じました。今日は本当に貴重な機会をいただきありがとうございました。 立命館大学・映像学部・4回生

三味線の魅力にすごい惹かれました。長い間、浪曲が愛された理由についてライブを聞いて理解することができました。世界に発信すべき日本のコンテンツだと思いました。私は韓国人で、三味線や浪曲についてはあまり詳しくないものですから、聞いていて見てとても楽しかったです。「クールジャパン」の1つとして世界中に渡るようにすべきコンテンツであり、守るべき日本の文化であると思います。

立命館大学・映像学部・3回生（留学生）

実際に生で演奏していただき、迫力とそのスピード、体の奥にまで入り込んでくるようなその歌声に圧倒され、鳥肌が立ってしまいました。日本の伝統芸能といわれるとどうしても私たち若者世代、一般庶民からは遠い存在で、関わりにくいものだと思っていました。それを今日、国本先生が変えてくださいました。本当に本当に言葉では言い表せないほど素敵なステージで感動しました。絶対ライブを見に行きたいです。

立命館大学・産業社会学部・3回生

すごく人の心に訴えかけるような音楽・文化だと思いました。確かに時代が変わるとともに、スタイルを変えないといけないと思います。しかし、決まった形を変えるというのは大変勇気とパワーがいると思います。革命児と呼ばれ、会場を満員にすることができる国本先生のパワーはすごいと感じました。実際の演奏を聞かせていただくと、本当に驚きました。パーカッションが入ったことでとてもロック調で面白かったし、国本先生の歌い方や語り方が本当に楽しくて、見入って、聴き入ってしまいました。

立命館大学・産業社会学部・4回生

昔ながらのスタイルをかたくなに守ることが伝統芸能を守ることだと思っていましたが、国本さんの実演を見て、今の時代の人々が楽しめるように形を変えて、次世代に伝統芸能を伝えて残していくことが重要だと思いました。若い人や海外に伝えて、その楽しさを伝えていく国本さんのような方が増えれば、日本の伝統芸能は更に栄えていくと思います。

立命館大学・国際関係学部・3回生

今まで学校で色々な日本の文化に接することがあったが、今日のようにライブで演奏を聴いたのは初めてで本当によかった。伝統を続けて守るのが日本の大きな魅力だと思う。新しい文化を作るのも重要であるが、伝統の文化を維持することがなぜ重要であるかを考えてみる貴重な時間だったと思う。

立命館大学・産業社会学部・2回生（留学生）

